

科目名	中小企業論特講	担当者	コバヤシ セイジ 小林 世治	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	日本の企業の多くは中小企業である。それぞれが属する地域と産業において、「異質多元」と呼ばれる多様な存在形態をもち、個性的な役割を果たしている。しかし、大企業と比較して量的規模だけではなく質的な差異・格差をもち、それらと対等ならざる関係を強いられている。さらに、「グローバル化」などさまざまな経済環境の激変にさらされ、個々の経営努力のみでは容易に解決のつかない課題を抱えている。こうした日本の中小企業の現状を、自ら調査・分析し政策力をつけるのが目的である。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】中小企業にかんする一般知識を得ると同時に、その「問題性」と「発展性」の両面をバランスよく分析し、自らの職場体験などをもとに具体的な政策提言ができる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】テキストの内容を理解するだけでなく、自らネット検索などによって資料のアップデートを行い、「問題」の発展あるいは解消を確認する。また関連資料・著作も参照して、分析・評価の相対化を行い「自ら」の位置、したがって政策的立場を明確にする。最後に、政策の現実性に関して、様々な側面から自己検証することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】テキストの全体を一通り読む(約1ヶ月)必要がある。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】参考資料の多くは該当する Web サイトから閲覧できます。そのためネット検索に習熟することは、一種のアクティブラーニングとなるでしょう。私自身の中小企業観なり中小企業政策に対する考え方については、過去2回行った講演・授業のビデオ(本HPよりネット配信)をご覧ください。</p> <p>【学修方略 (LS)】レポート課題に沿って、まずテキストを「読み込む」作業が重要です。関係しそうな部分を「つまみ出す」だけだと、それぞれの要素が位置づけられた文脈を見逃してしまいます。そうした作業を前提に、さまざまな立場からの分析・評価があることを理解しましょう。その上で自らの立場を位置づけ、その根拠がどこにあるかも反省してみましょう。</p>		
スケジュール	<p>前期：教材1のレポート課題(1)の草稿は7月末、課題(2)の草稿は8月末をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出すること。</p> <p>後期：教材2のレポート課題(1)の草稿は11月中旬、課題(2)の草稿は12月中旬をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も2019年1月課題提出締切日までに最終稿を提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	内容 60% 提出 20%	課題に沿った論理構成で、十分に教材を読み込んでいるか 参考文献、先行研究などの検索・検討がなされているか 脚注などレポートの必要情報が正確に盛られているか 今回解明できず残された「問題」が何か、認識しているか 期限を遵守し、最終稿まで十分推敲したか、を問います
	平常評価	20%	最終稿までの相談状況から判断します
履修者への要望	教材それ自体をしっかりと読んで、疑問点などをメモしてください。レポートの作成はその次です。ネット検索は適切に行えば「力」になりますが、安易なコピペをすると自分の頭で考えることができなくなります。何がわかって何がわからないのか、自らはっきり区別できるようになるのが到達点です。全てがいつ頃にわかった、ということは絶対ありません。何度でも読み直し考え直し、最後に、本当に「わかった」という感動を味わってください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治 教材名： 『中小企業・ベンチャー企業論—グローバルと地域のはざままで[新版]』 (有斐閣, 2014年) ISBN:978-4-641-16431-4 2,400円+税
	既存の中小企業だけでなく起業・ベンチャー(第IV部)にも目配りした, バランスの良い入門テキスト。『中小企業白書』をはじめ参考資料が充実し, そうした資料分析にも触れることができる。レポート課題を行うためのモデルともなる。
参考図書	中小企業庁『中小企業白書 2018年版』(ホームページからダウンロード可能)
履修上のポイント	絶えず大企業と対比し, 経営学での「一般的」指針との落差を意識して, 中小企業の実態を把握するよう努める。そうした「問題性」とともに, 「発展性」や可能性にも思いをめぐらそう。
レポート課題 1	中小企業の経営上の「問題点」を, 整理しなさい。 留意点: 大企業と比べた格差の原因や, 大企業との関係(有無と内容)と関連付ける
レポート課題 2	中小企業の現状と課題を「参考図書」から探り, どのような政策的配慮が必要か述べなさい。 留意点: 教材で示された中小企業の一般的特徴と, どこがどう違うか確認すること

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 黒瀬直宏・上原聡 編著 教材名： 『中小企業が市場社会を変える～中小企業研究の社会論的転換～』 (同友館, 2014年) ISBN:978-4-496-05046-6 2,400円+税
	5つのトピックを取り上げ, 中小企業の社会的役割を広く「社会経済」の枠組みで示す, 試論集。中小企業が, 市場をベースとし高度に発達した資本主義のもと, 多くが採算に合わないものとして, その「不合理性」が強調される。しかし逆に現在の経済システムじたいに問題はないのだろうか?
参考図書	松永桂子著『ローカル志向の時代』 (光文社新書 788, 2015年) ISBN:978-4-334-03891-5 740円+税
履修上のポイント	中小企業政策の変遷は基本教材1や「参考図書」をみてほしいが, 中小企業とくに小規模企業が本来果たすべき役割は, 狭い意味での「市場」なり営利事業の範囲で考えてはいけない。人々の「働き」や企業活動とはそもそも何であったか反省し, 政策的視座を再構築しよう。
レポート課題 1	第1章あるいは第2章を要約し, これからの研究課題——貴方自身のもでも一般的にでもどちらでもよい——を考えてみよう。 留意点: 中小企業論の理論的奥深さを感じ取ってほしい
レポート課題 2	第3章～第5章のうち1つを取り上げ, これからの政策課題を考えてみよう。なお政策主体は, 政府(国や自治体)だけに限らない。 留意点: 政策「主体」の形成も重要な課題